

16

医療法人やすらぎ
関内いしだ整形外科・脊椎クリニック

理事長

石田 航

Ishida Koh

Profile

琉球大学医学部卒。2019年5月、関内いしだ整形外科・脊椎クリニックを開業。脊椎のスペシャリスト。「安心・安全で質の高い医療を提供し、あなたを元気にする」を理念に、患者にとって最良の医療を提供する。

資格

- ・医療法人やすらぎ理事長
- ・関内いしだ整形外科・脊椎クリニック院長
- ・日本整形外科学会 専門医
- ・日本脊椎脊髄病学会 専門医

所属学会／団体

- ・日本整形外科学会
- ・日本脊椎脊髄病学会
- ・日本骨粗鬆症学会



Contact

神奈川県横浜市中区尾上町3-28横浜国際ビル2階3階
<https://k-ishidacl.com/>

More
Details



患者への共感をベースに、
最新の治療法で疾患に挑む脊椎のスペシャリスト

多様な治療法を組み合わせ、 一人ひとりに最適な医療を提供

神奈川県庁や横浜市役所を擁する行政の中心地であり、横浜中華街や横浜スタジアムなどがある国内でも有数の繁華街に隣接する横浜・関内。観光客とビジネスパーソンが行き交う関内駅から徒歩2分の好立地に、遠方からも患者が足を運ぶ整形外科クリニックがある。整形外科、リハビリテーション科の二つの診療科を設ける「関内いしだ整形外科・脊椎クリニック」だ。

外傷、スポーツ外傷、関節疾患、脊椎疾患、リウマチなど幅広い傷病に対応し、ブロック注射、投薬、リハビリをはじめ多様な治療を組み合わせ、患者一人ひとりに最適な治療法を提案する。院長の石田航は、大学病院や総合病院で15年間整形外科医として研鑽を積み、数多くの手術を経験してきた。特に、クリニック名にある脊椎の疾患に大きな強みを持つ。椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、骨粗しう症性圧迫骨折などの診断や治療を得意とし、しびれを伴う神経系の疾患にも精通。診断を迅速かつ正確に行えるよう、最新型の骨密度検査機器や物理療法器具、レントゲン透視装置などを完備している。運動療法にも力を入れ、リハビリテーション科には理学療法士、作業療法士が常駐し、

患者に効果的なリハビリ計画を提供できるよう定期的に勉強会に参加し、技術に磨きをかけている。

「脊椎の機能は奥が深く、治療法も多岐にわたります。一時的に痛みを抑えることができても、その後の治療の道筋まで描ける整形外科クリニックはそう多くありません。手術が必要な症状を抱える患者さんもいらっしゃいますが、多くの手術を担当してきた経験から、手術の判断や最適な医療機関への紹介をスムーズに行うことができます。患者さんが元気になるまで、妥協のない姿勢で寄り添う。そうした面で、ほかのクリニックとは一線を画していると自負しています」

その言葉通り、関内いしだ整形外科・脊椎クリニックでは一般の整形外科ではありません。受けることができない治療法も取り入れている。例えば、痛みを感じる部位の神経付近に麻酔薬を注射し、痛みを断つブロック注射。即効性があり、合併症があつても受けられる人気の治療法で、「硬膜外ブロック」を提供するクリニックは一定数あるが、ここではさらに深部の脊髄神経に注射ができる「頸椎と腰椎の神経根ブロック」も提供している。この検査には、透視装置とエコー（超音波）を用いる。レントゲンには写らない筋肉、神経、腱などの組織が動きを伴う状態で観察でき、病態をより明確に把握できるため、正確な診断と治療が可能になる。特に、首のブロック注射では高い安全性を担保

できるようになつた。また関節、腱鞘、ハイドロリリースなどすべての注射でエコーを用いて安全で正確な施行を心がけ、少ない薬の量、細い針で注射時の痛みを極力抑えているという。

また、医師自身ですることが珍しい「徒手療法」も行う。一切の機械や器具を使わずに、治療者が患者の体に直接触れながら施す治療法だ。石田はこの療法で、近年整形外科で注目される「仙腸関節」の疾患にアプローチする。骨盤部分にある上半身の体重を支える関節で、動きが悪化すると腰や下半身の痛み、しごれといった症状が現れる。影響範囲が広く、仙腸関節の動きを促すことで首の痛みまで改善することがあるという。仙腸関節の異常は検査で見つけることができないため、「問診と診察が勝負」と石田は言う。以前、自律歩行すらできないほど腰を痛め、壁づたいで来院した30代医師の患者がいた。石田は問診で症状の出方や期間を確認してから仙腸関節の疾患と判断し、徒手療法を行つたところ、それまでの不調は嘘だつたかのようにスタスターと歩いて帰つたという。

石田は、「痛みに苦しんでいた患者さんが笑顔で帰宅して行くのを見ると、大きなやりがいを感じる」と話す。多種多様な療法や最新技術を学び、患者の症状やライフスタイルに応じた安心かつ安全な医療を提供すること。これが石田が最も大切にしているスタンスだ。

安心・安全・質の高い医療という 3本柱を理念として言語化

「安心・安全で質の高い医療を提供し、あなたを元気にする」という理念を掲げる石田。クリニックを開業したとき、憲法のように普遍的で、自分の行く先を示し、意識を高め続けるための指針として練り上げた一文だという。

「安心」とは、患者に敬意と配慮を示し、相手の状況や心情を理解したうえで、心を込めて対応することだ。診断のスピードも重視する。例えば、線維筋痛症やリウマチ性多発筋痛症は特定が難しく、不定愁訴（原因不明の不調）ととらえられることが多い。そうした場合に病名が付くだけでも気持ちが整理ができる、前向きになる患者もいるからだ。「安全」とは、患者にとつて負担の少ない治療を、確立された技術で提供することを示す。「質の高い医療」という言葉は、それを提供するために常に学び続けることを自分に課すために盛り込んだ。

診療科の設置や機器の導入など、クリニックに関するあらゆる決定はこの理念をベースとし、クリニックで働くスタッフにも、この理念を軸としたサービスを提供するよう呼びかけている。

さらに石田は、「最良の治療」とは、患者を自分の家族のような存在ととらえ、病状を理解してもらえるよう説明を尽くし、少しでも早く苦痛を取り除けるよう寄り添い働きかけることだと話す。

「私は決してエリートではありません。サラリーマン家庭で育ち、医学生になるまでに3年浪人し、周囲から取り残されるような深い孤独感も味わいました。現在家庭では8人の子どもがおり、子どもの気持ちや、子育てをしながら働く親御さんの大変さもよく分かります。いろいろな患者さんがいらっしゃいますが、どのような方の気持ちにも寄り添い、共感をベースに診療を進められることも、私の強みだと思っています」

石田の出身地は千葉県。高校生の時は、中距離走の選手として日々陸上部の活動に励んでいた。トレーニングで膝や腰を痛め、整体に通ううちに、東洋医学や整形外科への興味が芽生えたという。高校で1年間アメリカに留学し、将来を考えたとき、頭をよぎつたのが体の不調を救ってくれた整体師や整形外科医の存在。当時、東洋医学を体系的に学べる教育機関は少なく、総合大学の医学部を志望校に定めた。しかし、なかなか勉強に本腰を入れられず、3年の浪人期間を経て琉球大学医学部に入学した。

大学6年次の医師国家試験に合格した石田は、横浜市立大学整形外科に入局し、いくつかの関連病院、大学病院を回ったが、偶然にも上司が全員脊椎専門医だった。脊椎の

ことを勉強するうち、石田はその奥深さにのめり込んでいく。脊椎は整形外科で最も重要な部位とされ、骨、関節、筋肉、血球を作る骨髄、さらに神経など、さまざまな要素が混在する。手術での小さなミスが大きな後遺症につながるリスクがある一方、少しの処置で症状を劇的に改善することもできる。脊椎が膝や腰のケアにも大きく関わると知り、脊椎のスペシャリストの道を歩み始めた。

指導医から指導を受けながら数々の手術にも携わり、順調にキャリアを重ねていった石田。診療と研究に勤しむ日々は忙しいながらも充実し、大学病院では脊椎チーフを務め、プライベートでも5人目の子どもが誕生するなど、公私ともに順風かのように思えた。しかし一方で、勤務医の収入で家計を支えていけるかが気にかかるもいた。家族のためにキャリアを諦め他院の分院長を務めたが、自分の理想の医療ではないと感じ、開業への想いを強くしていく。

独立を決意し、2019年に横浜・閑内でクリニックを開業。勤務医時代は緊急手術も多く、時には24時間体制で目の前の患者や手術とひたすらに向き合ってきたが、開業医となつたからはどのような医療を社会に提供していくのかを言語化し、表明する必要があると考えた。それが、今のクリニックを形作る先述の理念だ。

手術室を完備し 「ここだから受けられる」医療の枠をさらに拡大

さらなる安心・安全で質の高い医療を提供し続けるために、関内いしだ整形外科・脊椎クリニックでは、さまざまな試みを進めている。入居するビルの上階が空いたのをきっかけに、リハビリ室を上階に移し、リハビリ室があつたところに手術室を完備。これにより、小規模な手術を外来で受けられる体制を整えた。

2024年には、神奈川県内の整形外科では初めてとなる「L·DISQ（エルディスク）」を導入。局所麻酔で椎間板に針を入れ、先端が曲がるデバイスでヘルニア周辺の神経を除圧し治療するというもの。そのため患者は、腰椎椎間板ヘルニアの手術を、30分から1時間という短時間かつ日帰りで受けられる画期的な手術だ。椎間板全体を痛めることなくヘルニアにアプローチでき、1週間ほどで効果を実感できるという。東京都内でも導入している整形外科は少なく、東京都を飛び越えて千葉県から治療を受けに来る患者もいる。

また、ほかの治療法で改善がみられなかつた慢性的な腰痛や下肢痛への効果的な治療として、「Racz（ラクツ）カテーテル」も導入中。仙骨（骨盤の中央にある骨）の下部

にカテーテルを挿入し、薬液で神経の癒着をはがし、炎症や痛みの改善を目指す治療法だ。どちらも局所麻酔をするため入院できる医療機関で行われることが多いが、外来で実施できれば切開しないため、即日治療が可能になる。

「関内は、古くは開港した場所として発展し、アイスクリームの発祥など新しいものが生まれた地でもあります。当院でも新たに挑戦する場所として、いい治療は積極的に活用し、地域の人々に喜んでもらいたいと思います。これからも知識や技術に磨きをかけ、患者さんが少しでも早く痛みのない本来の健康状態を取り戻せるよう、サポートしていきたいですね」